

復興のまち

未だ爪痕を残す東日本大震災。私、編集部員小海は8月末に行われたUR主催「キモチ、あつまるプロジェクト」というスタディツアーに参加し、福島第一原発のすぐそば、双葉町、浪江町、大熊町を視察してきました。そこでは地震と津波の現実、そして町の復活に熱い想いを抱いて活動する人々に触れることができました。

知っていますか、原発被災地の今

原発事故により出された避難指示は長い時間をかけながら徐々に解除されていきましたが、浪江町、双葉町、大熊町（以下、3町）には未だ多くの帰還困難区域が存在します。双葉町に人が住めるようになったのは2022年8月30日。一部地域の避難指示を解除して特定復興再生拠点区域を定め、まずはここに人と産業を集めてスタート。一度人口が0人となった町の復興は始まったばかりです。

どんなところ？



福島県は最も内陸の会津地方、中通り、太平洋側の浜通りに分けられます。3町が位置するのは浜通りの中央。眼前に太平洋、後ろに阿武隈のゆったりした山なみをのぞむ気候の安定した土地です。東京から常磐線特急ひたちで一本とアクセス良好。古くは農業、高度成長以降は原発産業が発達しました。

東日本大震災・原子力災害伝承館

震災のことや、浜通りと原発の関わりについて知ることができる博物館。原発、震災の経過などを整理しているほか、資料の展示を行っています。私の目を特に引いたのは、原発ができた頃に近隣の小学生が書いた作文です。農閑期には出稼ぎに行かねばならなかった地域に原発産業がもたらした恩恵や、安全でクリーンな原発のイメージが子どもによって語られていたことが印象的でした。



中間貯蔵施設

被災地の除染作業では、表面の土と植物を取り除きます。それらを管理しておくのが中間貯蔵施設で、福島第一原発を取り囲むように広がっています。除去土壌を厚さ60cmのきれいな土で埋めることで放射線をカットできるそう。しかし「奥の林は除染してないから5、6μSv/h（※）くらいになります」との言葉に緊張が走ります。

「中間」というのは2045年までに除去土壌を県外へ運び出すことが定められているから。また、施設内では解体中の民家や崩れかかった公民館が見られました。施設の用地は住民から買い上げ、または借り上げています。土地を手放した方は思い出の品を家から運び出し、解体を待つことになるそうです。ここは本来ただの街であり、元の風景を取り戻さなければならぬ。壁は何重にも重なっているように見えました。



除去土壌を埋めた盛り土の上にて。
※ここで示した0.282μSv/hは年換算で2.47mSv。
日本の自然放射線量平均は約2.1mSv。



手前の盛り土に除去土壌が埋めてある。奥に福島第一原発を視視することができた。

写真：請戸小学校

震災を知る

震災遺構 浪江町立請戸小学校

海にほど近い、津波にのまれた当時のままの学校を保存しています。散らばる瓦礫に空っぽの教室。痛々しいといえそうですが、いざそこに立ってみると、私にはそれらが淡々と当たり前のように立っていて、それ以上何も言わないところにかえって説得力があるような、そんな気がしました。

当時ここにいた子供は全員が避難できたそうです。2階の黒板には10年後戻ってきた彼らの寄せ書きがありました。

「請戸は永遠なり」と。



検索
keywords

東日本大震災 キモチ、あつまる 請戸小学校 東日本大震災・原子力災害伝承館 中間貯蔵施設
除染廃棄物最終処分 ふくしま復興情報ポータルサイト 福島見学ツアー

はみだし
すてーじ

ぐっとばーの地域差すでい。「ぐうとんぱ」は衝撃だった
⇒「ぐーつばーでぐつぱつぱ」だった人いますか？

(工・1 積みゲー消化したい)
(研究してみる価値アリ!；編)

はみだし
すてーじ

解答欄からははみ出さないように気を付ける
⇒ここではどれだけはみだしても許されるのだ

(工・4 匿名希望)
(これからも投稿お待ちしております；編)

復興を知る

やっぱり空き地が多いな……



変わり続けるまち、葛藤

筆者が初めて双葉駅前に降り立った時に目に映ったのは空き地、静かな家、真新しい施設たちでした。しかしURの職員さんから意外な一言、「この辺の空き地は9割がた、企業さんなどの入居が決まっていますよ」。

行政が中心となりURが道路や土地の基盤整備を行い、立地する企業を繋ぎながら街に賑わいを取り戻していきます。駅前を中心に商業施設、住宅、公園などを集約した再開発プランもすでに作成されました。新たな工業団地の計画も進んでいます。ようやく人の手を入れられるようになった数年前から今、そして次の数年で街の様子は大きく変わり人々の活動も広がっていくということ。それは同時に元の風景は完全に戻らないということを意味します。まちがそのまちであることとはどういうことか、初めて訪れた私には上手くイメージできませんでした。

挑戦のまち

ツアーではいくつかの事業者を見学させていただきました。そのうちの1つが数年前から大熊町でキウイ栽培を行う株式会社「ReFruits」さん。事業を行うのは県外からの「関係人口」、現役大学生の阿部さんと卒業したばかりの原口さん。全国を飛び回ってたどり着いたのが大熊だったそうです。かつての大熊では特産品としてキウイ栽培事業が成長していましたが、震災により全ての農家が撤退を余儀なくされました。お二人は「キウイを再生させたい」この思いから育て、伝える活動を行っています。「大熊でなければこんなに広い農地は得られなかった」「浜通りでは起業支援も充実している」。浜通りにはそのようなビジネスの余地があるそうです。地域の方と一緒に苗植えをするなど、地域を巻き込みながらキウイ畑の風景を取り戻していくこの事業もまた、今後数年で大きく成長していきます。一方阿部さんは就職するか迷っている、ともおっしゃっていました。「キウイは再生させる。けれど必ずしもそれが生業である必要はない」やりたいことと仕事の関係を考えるヒントをいただき、またその姿勢に、むしろキウイに懸ける思いの純粋さを感じました。

過去と未来をつなぐ

続いて見学したのは新たにニンニク栽培を始めた吉田さんの御宅。震災前は米農家だったそうですが震災により避難、解除後に浪江に再び戻り、「サムライガーリック」というブランドを立ち上げました。養蚕用の天井が低いどっしりした御宅でよく目を引いたのは甲冑。吉田さんの家では代々馬を飼育し甲冑に身を固め、地域で千年以上の歴史ある祭り「相馬野馬追」に参加してきたそうです。馬に乗り野を駆ける侍たち、彼らの戦飯に栽培されていたのがニンニクでした。「サムライガーリック」には千年の武士の息遣い、過酷な震災、そしてそれを乗り越え浪江でニンニクを再生させた吉田さんの熱意が込められています。一時的に人が入れなくなっても、地域の文脈は受け継がれていたのです。

関係人口って？

住むのとも、観光で一回きり訪れるのとも違う地域参画の方法として、生計は他地域で立てながらもある土地へ継続的に通い、活動する人たちのことをいいます。「自分もここで何かしたい」に応えてくれるとともに、地域の新たなプレーヤーとして注目されています。

ホープツーリズムって？

ふくしまを見て、聞いて、話して学び、地域づくりとは何か、持続可能な社会とは何なのかを考える、復興から生み出された新しいスタディツアーの概念です。私が参加したこのツアーも1つの例といえるでしょう。一方、災害や戦争の跡地を訪れる観光の概念には「ダークツーリズム」というものもあります。それでもふくしまが希望を掲げるのはなぜでしょうか？



人々をつなぐ

大熊町でのUR活動拠点「KUMA・PRE」の前に広がる花壇。この花壇は「大熊に再び花を咲かせたい」という思いから、毎月様々な人に呼びかけて一緒に手入れしています。なぜそのようなことをするのでしょうか？ 原発事故による全町避難は地域コミュニティも奪っていきました。大熊町の人口は約1万人ですが、町内に住んでいるのはその1割にも及びません。（令和6年8月31日時点）。彼らと地域外からやってくる人たちが同じ目線に立ってひとつのコミュニティをつくってゆく、当然課題は多くあります。同じ問題はどの地方にも当てはまるでしょう。それでも「KUMA・PRE」のように誰でも入ってきて意見を交換しあえる場所は3町全てで目立ちました。ここが地域作りの成功例になれば……そんなことを考えました。

すすむということ

2020年にオープンした双葉町産業交流センターにはオフィスやコワーキングスペースのほか、土産物店、レストラン、町内唯一のコンビニがあり人々の活動の一拠点となっています。ツアー中、復興への「ちいさな一歩プロジェクト」の一環として8月29日に行われた「ふたば飲み」に参加しました。再び住むことが難しい人も、新たな移住者も、双葉に想いを持つ人たちが同じ時を過ごす場所。かつてここに住んでいた方が集まって屋台を出店したり、思い思いに飲み食いしたり話したり、子供たちがダンスを披露したり。こうこうと光る産業交流センターを眺めながら、まだ人が少なくても、まちの風景が変わっていても、とりえず今を楽しもうかと「復興」という言葉の意味の答えに近づけたような気がしました。

同情から共感へ

「原発被災地」しばしば私たちはそのような目を向けます。見方によってはそうかもしれないし、ここを訪れる前の私にもそのような考えはありました。訪れてもなお、浜通りの方たちがこの13年どのようなお気持ちで過ごしてきたか、簡単にわかったなどと言えるはずありません。しかし前を向いている人たちはいます。「さみしいとは言わない」そのような声が聞こえました。復興に向けて外の私たちに求められているのは前を向く力に共感し、応援したり一緒に何かやってみたりすることではないでしょうか。私も、もう一度訪れることから始めてみようと思います。

あなたの防災、大丈夫？

一人暮らしでは自ずと災害への対策が弱くなります。遠方から通っている方も、もし京都にいたときに災害が起こったら……どうしますか？ 長年暮らしてきた場所でなければ、避難所となる小中学校の場所、いざという時に誰を頼るか、把握が疎かになります。ハザードマップを確認しましょう。そして実際に歩いてみてください。遠方の家族、そして近くに住んでいる友人との連絡方法を確認しておきましょう。備蓄品や非常用持ち出し袋の準備もお忘れなく。

検索
keywords

ReFruits サムライガーリック 関係人口 KUMA・PRE まちづくりなみえ おおくままちづくり公社
相馬野馬追 ちいさな一歩プロジェクト ふたばプロジェクト ホープツーリズム 京都市ハザードマップ

はみだし
すてーじ

七輪買いたいです。鴨川って七輪使っていないんですかね？

⇒出町柳近辺は禁止ですが、それ以外なら罰則はないみたいです。「鴨川 パーベキュー」って検索したら府のページに書いてます
(農・2 ばいのごみーと)

(やるなら呼んで！；編)

はみだし
すてーじ

夏休み！

⇒楽しめましたか？

(工・院 スーージーQ)

(今月のはみだしは7月号読者カードのものというメタ発言；編)